

明けましておめでとうございます。昨年はこんなヘンテコエッセイに毎月のようにお付き合いいただき、有難うございました。お陰様でこの Photo World も 2 桁となりました。

と、先ずは新年のご挨拶。引き続き本題の Photo World へのめりこみましょう。

今日のテーマは、なんといっても新年ですから今年の干支、そう、戌ですよ。以下、工夫を凝らしたイヌのコレクション、ご笑覧下さい。



先ずはやはり植物から。「イヌ」の名前の付いた植物はかなりのたくさんあるのはご承知の通り。イヌウメモドキ、イヌガシ、イヌガヤなどに始まって、イヌシデ、イヌナズナ、イヌノヒゲ、イヌブナ、イヌヨモギなどなど、十指をはるかに超えます。

その中で先ずご紹介するのはこれ、「イヌザクラ」。その名の通り桜の一種で、10m を超える大木にもなるという種類です。関東でもあちこちで見られますが、この写真はネットから拝借しました。いわゆる桜の美しさとは一味違う、素朴な花ですね。



次なる植物はイヌビワ。当然バラ科だろ、と思ったら間違い。ビワはバラ科ですがこのイヌビワは、ビワと名前がついてるものの、クワの仲間でクワ科のイチジク属です。日本では関西以西に自生しますが、私などチョウ好きマンにとってイヌビワは、イシガケチョウの幼虫の食草と言うことで想い入れが深いのです。イシガケと言えば香川の金比羅山の奥の院の奥の屏風岩のあたり、昔は沢山いましたよね。あのあたりには(当然ながら)イヌビワもあちこちに生えてました。懐かしい！



3 枚目はオオイヌフグリ。オオバコ科の越年草で路傍や畦道で普通に見られる種類です。名前は良くないけれど、姿形はご覧のように可憐そのもの。この写真は 1 年半ほど前、城ヶ島近辺をうろついていた時のものです。それにしてもこの名前は、果実の形が雄犬の陰囊に似てることから付いたらしいですが、この種のそれは全く違った形ですよ。まさに誤審の最たるもので、再審要求が必要です。一部地方ではこの花を「ホシノヒトミ(星の瞳)」と呼ぶのだそうです。サンセ～イ！



最後はこれ。唐獅子とも言いますが、正解はコマイヌ。殆どの神社に鎮座ましまして、辺りを睥睨しています。このイヌちゃんは先月、田園都市線の沿線を歩いた時、藤が丘駅近くの医薬神社で見かけたものです。容貌は怪奇ですが、よくよく眺めると実直で素直で、こどもっぽい貌に見えてきました。因みに、医薬神社と言うからにはお薬に縁がある神社かと思いきや、「医王山薬王院」の略称なんだってさ。

さてこの Photo World もこれで 10 号を数え、一区切りついた感があります。これまでは月 1 を原則としてきましたが、今後は不定期刊とし、当分の間お休みをいただきます。次回お目にかかる日まで、皆様、お元気で。お便りはこちらへ。

haradah@rapid.ocn.ne.jp

(2018 年 1 月 1 日 大手前丸亀第 4 回生 原田浩 記)